教育旅行レポート　〝非日常の場〟に身を置き

向上高等学校
岩手など2泊3日
17年10月25～27日実施

水谷正公教頭

佐久間慎一教諭

「日本を知る」テーマに修旅でなく「心の旅」

神奈川県伊勢原市にある向上高校（直理賀一校長）は今年創立108年を迎える、県下有数の歴史ある学校だ。「明」（影のない心）、「浄」（けがれのない心）、「直」（素直で正直な、まっすぐな心）を校訓に掲げ、「『あなたの夢、応援します』というのが基本的なスタンス」と水谷正公教頭はいう。

全校生徒数は1620人（うち女子762人）。内訳は1年生505人（同258人）、2年生580人（同267人）、3年生535人（同237人）。

学力の伸長はもちろんだが、国際交流や奉仕活動を通じた心の教育にも力を入れており、このため修学旅行という言葉は使わず「『心の旅』と表現している」と水谷教頭。

1年生の国内旅行（2泊3日）、2年生の海外旅行（約1週間）が心の旅、いわゆる修学旅行にあたる。

1年生の国内旅行は「日本を知る」をテーマに、昨年は10月25～27日、岩手県の田野畑や滋賀・名古屋、飛騨、南東北、南三陸・仙台の5コースで実施。12クラスあるため、1コースあたり2～3クラスで行動した。

例えば、3クラス計122人（うち女子63人）が参加した滋賀・名古屋コースは「知ろう！　見よう！　楽しもう！」がテーマ。4教諭の引率のもと、25日朝に学校を出発し、名古屋市内見物や陶芸体験（瀬戸焼）、彦根城見学、滋賀県日野町での農村体験などを行った。すべてバスでの移動。

1泊目は名鉄犬山ホテル、2泊目は民泊だった。ちなみに生徒の小遣いは5千円。

各クラスに男女1人ずつの旅行委員を決め、その中の1組がコースリーダーとなる。「旅行委員は生徒の挙手で決まる。自分の力をこの場で発揮したいと考える生徒がいるのは心強い」と佐久間慎一教諭は目を細める。

「現地の人々との触れ合いや実体験を重視する」（佐久間教諭）とあって、日野町での農村体験（2日目）が今回のメイン。近江日野交流ネットワークの協力を得た。農村体験で何をやるかは各家庭の判断に任せ、学校側から注文はつけない。着いて初めて何をするか分かるだけに、生徒の反応もさまざまなようだ。

1軒の家庭に生徒3～4人が泊まり、畑での農作物の収穫や野菜洗い、農機具の手入れ、ご飯の準備、片付け、住人との懇談やゲームなど日ごろ経験したことのない日常を過ごした。翌日も農村体験をし、27日夕に学校着、解散。

男子生徒は「農村体験では今までやったことのない落花生の収穫や草刈りといった貴重な体験ができた。トランプや卓球では民泊の方々と一緒に盛り上がることができた。夜には自分たちの将来についての話をし、アドバイスをいただいた」と感激。

当初、民泊に気乗りはしなかったという女子生徒は「田舎ならではの空気、自然の豊かさを身と心で感じることができた。名物のういろうを作らせてもらったり、ご飯を作ったり、昔ながらの遊びも教えてもらった。今は一番の思い出になっている」と振り返る。

ケータイやスマートフォンを手放さない世代だが、「持っていくことは認めるが、TPOをわきまえて使用するよう指導した。ちゃんと守ってくれた」と佐久間教諭は感心する。

旅行先は、2泊3日で4万円という料金を上限に、旅行業者に提案してもらう。旅行業者4社が、各社2～3案提示してくるという。「心の旅を理解してくれ、安心・安全はもちろん、サポート体制がしっかりしたところを選ぶ。単なる旅行手配ではなく、一緒に考えていただけることも大切」と水谷教頭は強調する。

一方、2年生の海外旅行は毎年10月、韓国、ベトナム、カンボジアの3コースに分かれて実施している。「グローバルな視野を持つためには自分の目で世界を見て、文化の違いを肌で感じることが大切」という考えからだ。コースは希望者選択制だが、希望者が多い時は学校側で調整する。費用は1年次から積み立て、16万円となっている。

韓国への旅行は早くから実施しており、日本では2番目に長くやっているという。韓国政府から表彰されたこともある。その後、成長著しいベトナム、カンボジアが加わった。ベトナム、カンボジアへの旅行は向上高校が初めてという。

この旅行が海外初体験という生徒も少なくない。「パスポートの取得には戸籍謄本などが必要になるが、取り寄せることも教育の一環、生徒自身でやるよう指導している」と佐久間教諭。

心の旅（修学旅行）とは異なるが、米国の姉妹校との交換留学も実施している。

農家の人とのふれあいもうれしい

畑仕事での収穫に笑顔

彦根城での記念撮影

日野町での入村式

どんな料理ができあがるか

大阪府立芥川高等学校
東北3泊4日
17年10月22～25日実施

有田祐輔教諭

西村蘭教諭

震災学習と民泊を通し生徒の「世界」広げたい

京都、大阪の中心部から20分あまりのベッドタウンながら、北摂の山々の豊かな自然が残る大阪府高槻市。大阪府立芥川高等学校（河方智基校長）は、マンション群が目立つ同市中心部からは少し離れた静かな環境にある。2年生全員が地元の老人ホームで実習を行うなど、地域の多世代と関わりを持つ体験学習に積極的に取り組むと共に、海外からの学校訪問を積極的に受け入れたり、グローバル専門コースを設けたりするなど国際理解教育にも力を入れる。

同校は国際理解教育の観点から2012年以降、現地の学校との交流を盛り込んだ台湾への修学旅行を行ってきた。しかし2017年度は宿泊先や航空座席の確保の問題をきっかけに、「真の国際的な視野は日本のことを知ることが第一」「南海トラフ地震の発生が想定される地域として、被災地で学ぶべき」との観点から、東北方面への修学旅行を実施した。

日程は10月22～25日の3泊4日。1日目に宮城県の気仙沼と石巻、亘理、山元の4エリアに分かれての震災学習、1日目の夕方から3日目の朝までは岩手県奥州市での農家民泊体験を実施。3日目が平泉・中尊寺の参拝、安比高原での自然体験、4日目が小岩井農場散策と宮城県松島高校観光科の生徒のガイドによる宮城・松島の観光という行程だ。「震災学習を充実させたい、同年代との交流、東北の文化体験をしたいとの考えがあった」と話すのは学年主任の有田祐輔教諭。特に力を入れた震災学習は、4コースに分けることで、さまざまな被災地の現状を学べるようにした。

旅行の事前学習として、国語科や家庭科などで東北を題材に授業を行った。中でも総合学習が、震災学習に向けた調査学習だ。「被災地を訪れ被災者と接するにあたり、事前事後学習をしっかりとさせたかった」と有田教諭。各クラス8班に分かれて震災に関する34のテーマから一つを選び、そのテーマについて新聞やポスターにまとめた。さらに修学旅行前に行った文化祭や保護者説明会で掲示、発表した。

旅行当日、あいにくの雨天となった震災学習は主にバス車内からの被災地見学となったものの、一部では被災した建物の内部に入って見学することができた。バス車内で地元の語り部ガイドと事前学習の知識を生かしてやり取りしたり、被災建物内で被災当時の映像などを視聴したりする中で多くの生徒が衝撃を受けた様子だったという。

事後学習では、見聞した被災地の状況や現地での感想などをまとめ、全校防災訓練の際に方面別にプレゼンテーションした。生徒の発表の中には「被害がどんなに大きくても、その実態が報道されず、知られないままの町もある」「被災後に対策を立てるのではなく、震災前にこそ防災のことを真剣に考えて対策を講じなければならない」などの意見があった。さらに自分たちの住む高槻の槻とは全く違う環境に触れてほしかったと話す。

生徒たちは牛の世話やキウイの収穫、野菜の種まき作業といった生業体験のほか、「がんづき」などの郷土菓子づくり、大きな家屋ならではの玄関での卓球など、普段の生活とは180度違う時間を過ごした。デジタルに逃げてほしくないと携帯電話を回収した2日間だったが、生徒たちは離村式後に「ケータイがないのに気づかなかった」と言うほど、民泊先での生活にどっぷりつかり、時間に追われずのびのび過ごした。「『自分たちがケータイがなくても生活できるんだ』という驚きもあったようだ」（有田教諭）。受け入れ家族の温かさ、そして各家庭で食べる白いご飯や果物のおいしさに感動し、生徒の9割が肯定的な事後感想を書いていたという。

理想の修学旅行について尋ねると、有田教諭は「自分のことを考えるきっかけになる、人として一皮むけることができる旅」、西村教諭は「『楽しかった』で終わらない、財産になる学びがある旅」と話した。

事前学習で震災についてポスターにまとめて、文化祭で展示した

震災学習で山元町・中浜小学校を見学

民泊先で牛の世話を体験。怖がっていた生徒も徐々に慣れた手つきに

民泊先で実際に出荷する野菜の種まきをする生徒たち

避難訓練で、震災学習で学んだことを発表

飛騨高山で感動体験　本物の資源で感性に響く教育旅行

文化

古い町並

飛騨の里

江戸時代の商人町が今に残る古い町並、日本三大美祭のひとつである高山祭、全国で唯一現存する郡代役所の高山陣屋、素朴なふれあいのある朝市など、地域に深く根ざした歴史文化を学ぶことができます。

自然

新穂高ロープウェイ

乗鞍岳

日本一広い高山市には、穂高連峰や乗鞍岳など北アルプス（飛騨山脈）を中心とした中部山岳国立公園をはじめ雄大な自然景観が広がります。登山や滝めぐりで四季折々の自然に間近で触れることができます。

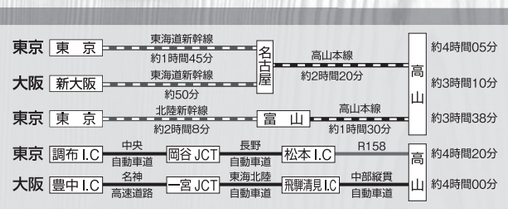
体験

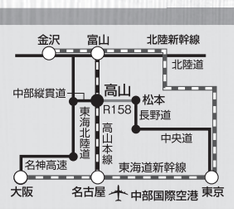
スキー・スノーボード研修

農山村体験

農家民宿での宿泊、田植えや野菜の収穫といった農山村体験を通して地元の人々との触れ合いが楽しめます。冬にはスキーやスノーボード研修も人気です。市街地には飛騨の里などの体験施設が点在しています。

交通のご案内





教育旅行に関するお問い合わせ
飛騨高山観光客誘致推進協議会（高山市観光課内）
Tel. 0577-35-3145　Fax. 0577-35-3167
http://kankou.city.takayama.lg.jp/　kankou@city.takayama.lg.jp

農山村体験に関するお問い合わせ
一般社団法人ふるさと体験飛騨高山
Tel. 0577-79-2005　Fax. 0577-79-2006
http://www.furusato-taiken.jp/　furusato@takayama.neo-gn.com